

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三-1-5
TEL 027-2555-3434
FAX 027-2555-3435
http://www.neues-asahi.jp

ふと手にした本のページを開いて二行目を読み始めました。

著者の女性が五十年前も前に沖繩で出会ったタクシートの運転手との何気ない会話なのですが……。彼は、昭和二十年六月に南の端にある摩文仁岳の洞窟まで追いつめられ九死に一生を得て生き残り、その後一年間を米軍の捕虜として生活をしました。名前も知らずにポツリポツリと語り始めた時、沖繩本土復帰以前、沖繩が一日も早く本土復帰したい理由として「自分は日本人として生きてきたからです」と語ったそうです。かれを生き続けさせ、そしてこれからも生き続けたいと願う「日本人」とは何なのかを宿題のように抱き続けながら著者は生きていきたいと文章を終えています。

インターネットの発展で情報革命とまでいわれ、グローバル化が進む現代において、情報の多さ、情報収集の速さには驚かされます。

また、フェイスブックやツイッターやインスタなどで個人的な情報や交友関係を広げ「お友達関係」や「いいね」が拡散されます。一方、日常では個人情報漏れに注意深くなり、名簿や書類の管理に神経を使い、近所づき合いも、どこかの企業でも社員間の交流が以前に比べると極端に少なくなってしまう結果、個人主義におちいりがちになりました。

「昭和」のゆつたりとした時間はどこにいつてしまったのでしょうか。大事なものを失いつつある日本人の姿が見えてきます。

本質的に「今を生きる」意識の問題が情報の誘惑に左右されてしまい振り回される結果になりがちです。自分を見失うことなく日本人であることに誇りを持ち、流れる「血」を感じつつ、自分を大切にしていきたいと思える毎日です。

病の宣告や肉親の突然の死によって人の人生はガラッと変わってしまいます。テレビやラジオから流れてくる数々のニュースを見たり聞いたりしていると、一人の人間にふりかかる災難に言葉も出ない毎日ですが、そこからどのような時間と向き合っていたら良いのか……。

時間だけが解決してくれるものではありませんが、一歩でも半歩でも前に進まなければならないことを思えば、自分の中で少しづつでも解決策を考え、自己と向き合つて心も身体も休息をとりながらも日本人として生きていかなければならないと思います。

「春」「夏」「秋」「冬」と四季折々の風景の変化、そして忘れかけている「日本人」としての原点を思い出せば、生きていく方向性は霧が晴れていくように見えてくるようにも思えます。梅雨の雨だれの音が懐かしく、そして初夏の風はそこまで来ています。

(武藤)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

空を飛んだアートたち

ウズベキスタン作品展の出品作家10人展 〈企画〉

後援 ウズベキスタン大使館

会期 六月一日(土)～九日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

六月二日(日)午後二時より同会場にてウズベキスタン大使館職員イザティラ氏によるトークとティーパーティーがあります。お時間のある方はお出かけください。

二〇一〇年十一月より二〇一八年までウズベキスタンのタシケント平山郁夫国際文化(キヤラバンサライ)で開催してきた作家による展覧会です。

会期中、ウズベキスタンで作られた工芸品、雑貨なども販売いたします。シルクロードの中継地として、またオアシスの都市として栄えたウズベキスタンの旅をノイエスでお楽しみください。

Oldtown in U.S.A 武内伸夫 Classic Car Model 熊田憲明

Around 1930's-1950's 〈企画〉

会期 六月十一日(火)～十九日(水)

午前十時～午後五時(最終日は午後四時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

アメリカの映画、車、音楽、コーラ等に憧れ生きてきた良き時代のオールドタウンとクラシックカーモデルの作家による展覧会です。

アメリカのホームドラマの画面が甦ってくるような作品の数々をお楽しみ下さい。

第26回 油彩グループ 金曜会展

会期 六月二十一日(金)～二十三日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

出品者

荒井 誠・狩野美重子・塩谷充代・石井志げ
久保田和子・角田邦子・岡本美智子・桑原榮子
美濃部洋代

賛助出品

島崎庸夫先生

ノイエス朝日〈今年の展覧会予定〉

七月 田中悟子個展

慶陶房と仲間たち作陶展

八月 平野裕明個展

第54回 自由美術群馬展

九月 ブランシエ展

飯出袈裟市 暮しの挽物工芸展

第5回 松尾昭典作陶展

十月 掛川孝夫展

Izikawa エシオ展

吉沢恵介作陶展

十一月 瀬下充代展

うつわ彩々 高橋芳宣展

十二月 難波多輝子展

萩原敏孝作品展

なお、展覧会は翌月にかかるものもあります。また、展覧会名が変更する場合があります。